

あざみ 令和6年2月度特別作品

萩の寺 あざみ

昨年十一月初旬、三姉妹で大阪の東光院に参拝しました。東光院は萩の寺として親しまれ、大阪では、南の四天王寺、北の東光院と並び称されています。境内には、正岡子規、高浜虚子などの句碑があり、ホワイト・ブツダと呼ばれる釈迦如来白仏像が鎮座しておられます。色とりどりの萩の花は、清楚なものから近代的な変化のものまで楽しめます。寺を巡ると、健康への不安も薄れて心穏やかになり、元気をもらうことができました。久々に、ここに来られたことを幸せに思いました。

寺町の昼の静寂萩の風

松手入寺にあまたの庭師来て

爽涼やブツダの像に令掌し

萩の寺般若心経子と唱へ

萩の風萩寺で買ふ萩の筆

萩の寺投句箱へと一句入れ

刈る萩を括る手伝ひ参詣者

枯萩の塵を集むる寺の僧

ひらひらと落葉降り来る百度石

小春日の子規の句碑へと足軽く

《作品鑑賞》

ふじ女

作品に誘われて、東光院のHPを開いて見ました。大阪のみどりの百選にも選ばれた、萩のお寺。三姉妹で楽しめたのでしよう。萩の花言葉は、内気、思案、柔軟な精神、だそうです。萩の控えめな美しさのあるお寺に、一度、行ってみたいになりました。

寺町の昼の静寂萩の風

萩は、風が吹くと、はらはらと花が散ってしまうようです。静寂の中にも、何か音を聞いてしまうような句です。

松手入寺にあまたの庭師来て

庭師さんの手仕事。人の手の行き届いたお寺なのでしよう。

枯萩の塵を集むる寺の僧

萩の花言葉には、実は、残酷、というのがあります。花が小さく散りやすくポロポロと落ちてしまうから。お掃除は、大変でしょうね。

小春日の子規の句碑へと足軽く

萩の寺投句箱へと一句入れ、と今回の作品にありました。が、つい投句してしまう気持ち、よくわかります。足も軽くなって良い旅の終わりですね。